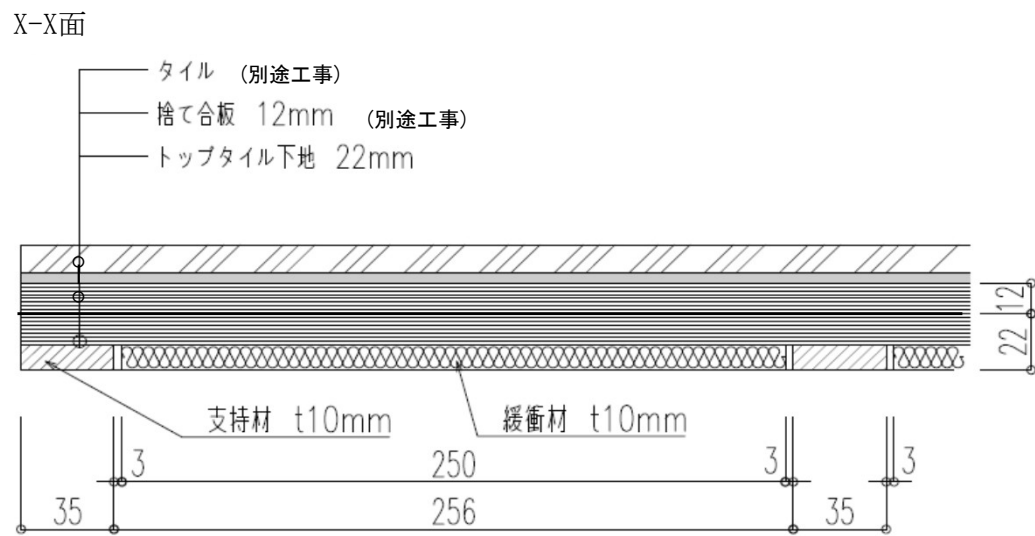
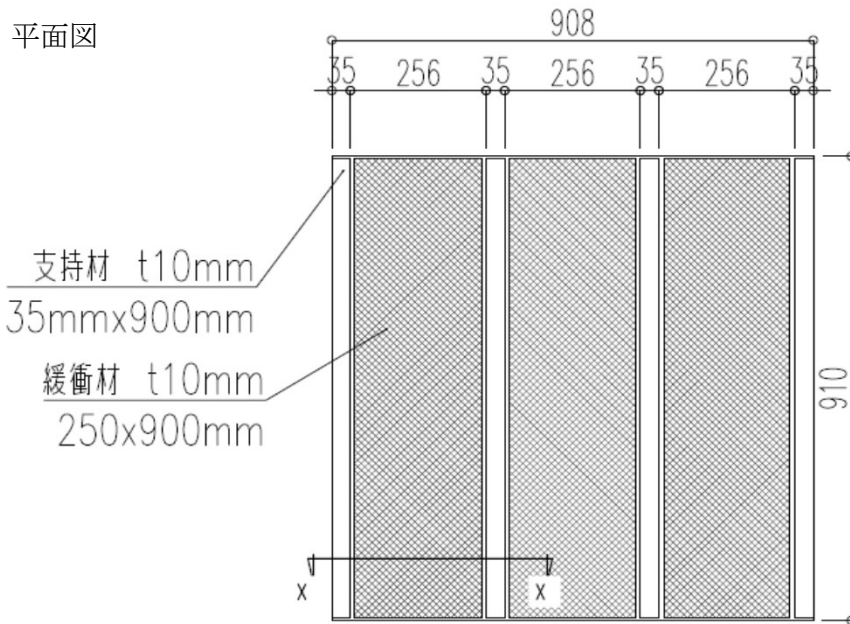


トップタイル下地 施工要領書

株式会社トップ工業
(20230701 第3版)

1. 製品仕様



2. 施工手順

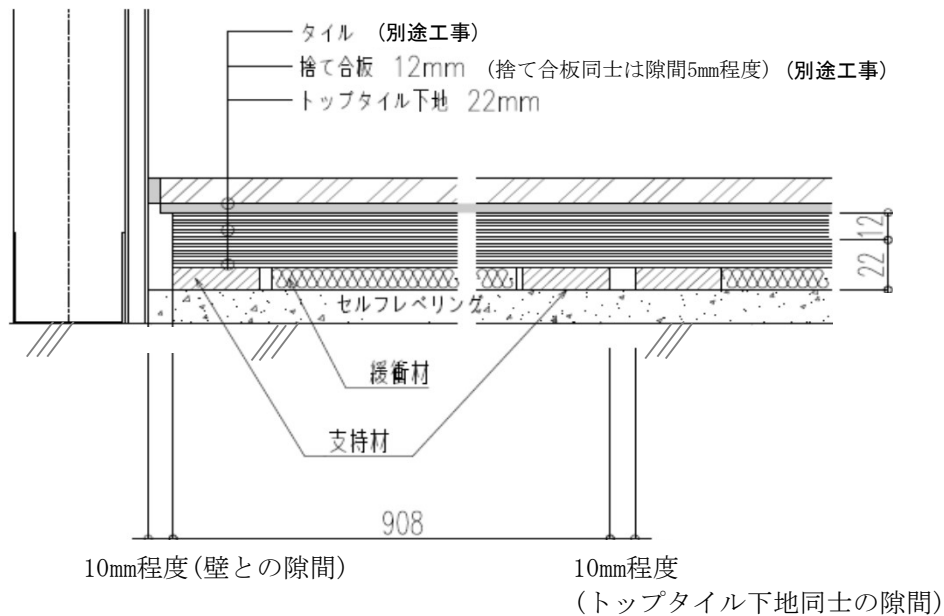
2-1 スラブ下地の確認



- ・床スラブ上のセルフレベルングは、トップタイル下地の施工前までに乾燥期間を確保して下さい。
- ・上がり框、床見切りなど取り合い部の床レベルは、仕上げ材に段差が生じる場合がありますので特に注意して下さい。

2-2 トップタイル下地の割り付け

- ・トップタイル下地の基本割り付けは、長辺端部に支持材が残るように割り付けて下さい。
- ・トップタイル下地をカットする場合は、長辺端部に支持材が2本以上残るように行って下さい。
- ・トップタイル下地と壁面は壁面より10mm程度隙間を空けて下さい。
- ・トップタイル下地同士は10mm程度の隙間を空けて下さい。

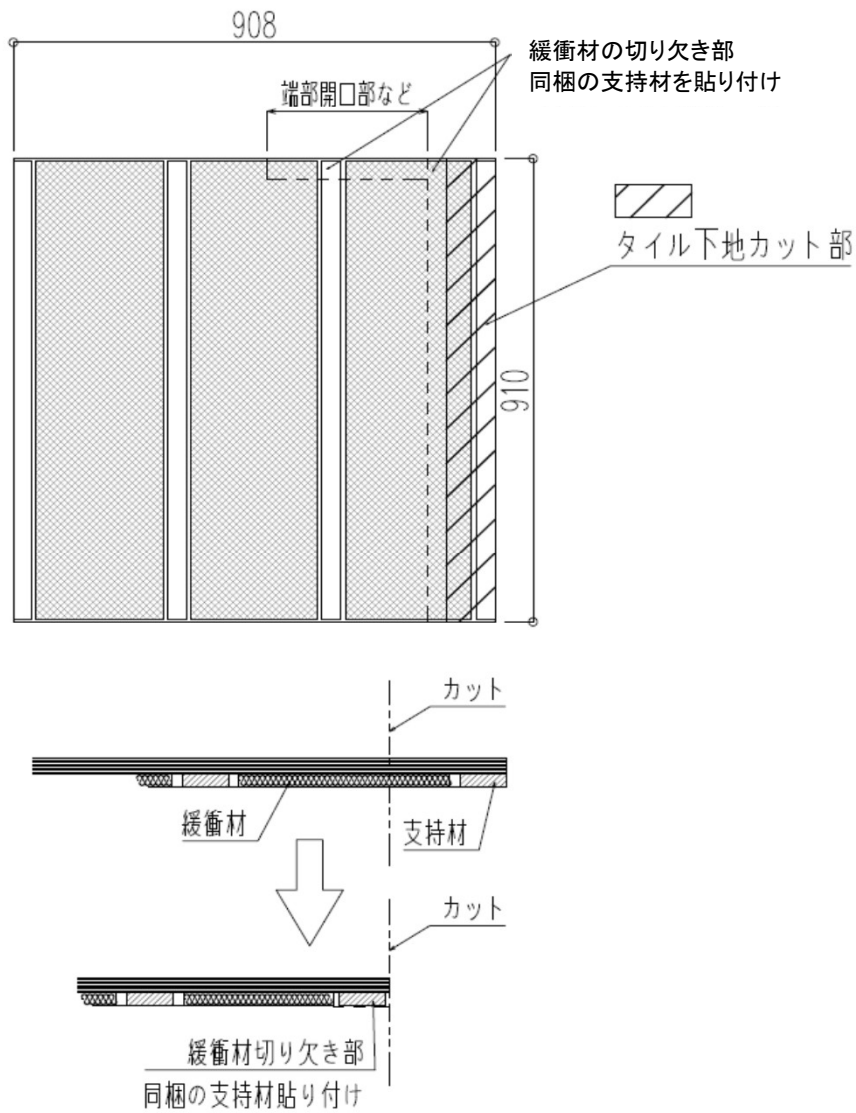


3. 各部取り合い部の 端部処理



- ・上がり框部、床見切り部など取り合い部の端部は補強して下さい。
補強は緩衝材を切り取り同梱の支持材とするか、又は元請と協議の上、合板などを取り付けて下さい。
- ・仕上げ材が異なる取り合い部に段差が生じる場合がありますので、床見切り材などを使い納めて下さい。

取り合い端部の処理



4. 接着剤の塗布



- ・トップタイル下地を敷くスラブ面に直貼りフローリング用接着剤（一液湿気硬化型ウレタン樹脂系接着剤）を使用し、メーカーの要領書に従い塗布して下さい。

※ 推奨接着剤

ボンドKU999 アプリパック(コニシ株式会社)

ボンドKU928R、エコボックス(コニシ株式会社)

5. トップタイル下地の敷き込み

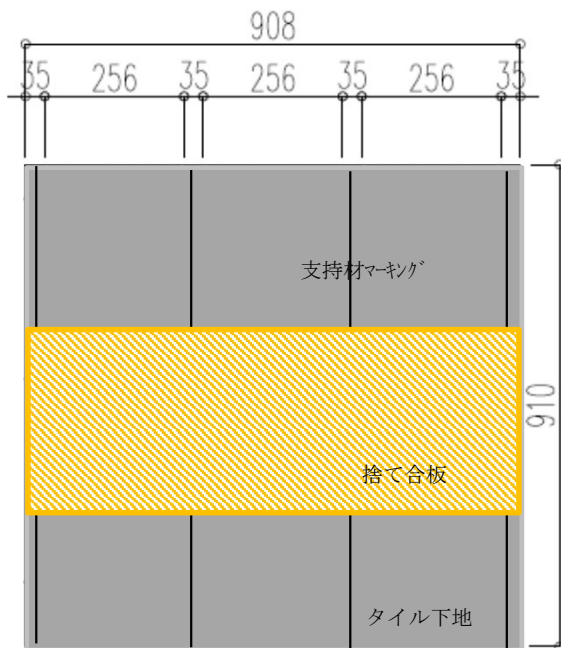
- ・トップタイル下地を接着剤を塗布したスラブ上に敷いて下さい。
- ・トップタイル下地は支持材の向きを同方向に設置して下さい。
- ・敷き込み後、捨て合板を仮置きして下さい。
- ・トップタイル下地に反りがある場合は捨て合板を重ね置きして下さい。
- ・仮置き後は接着剤が硬化するまで12時間以上は養生して下さい。

6. 捨て合板の施工（針葉樹合板）

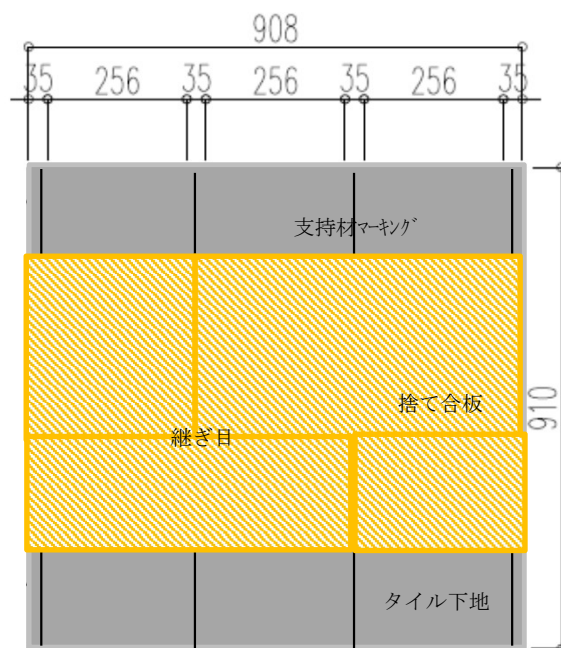


- ・ 捨て合板は厚12mm以上を使用し、捨て合板と壁面、捨て合板同士は5mm程度の隙間を空け、トップタイル下地の継ぎ目に係らない様に割り付けて下さい。
- ・ 狭小部の捨て合板は継ぎ目なく施工して下さい。
- ・ 捨て合板の目地がI字、T字、十字の場合は支持材の上で行って下さい。支持材の位置はマーキングしてあります。
- ・ 捨て合板の固定
 - 1) 捨て合板面に接着剤を塗布して下さい。
 - 2) 合わせてフレキ付コーススレッドL25mmで外周部200mm、内側300mmピッチ以内で固定して下さい。

例：狭小部は継ぎ目なく施工する。



例：継ぎ目がI字、T字、十字の場合は支持材上で留める。



7. タイルの施工



- ・ タイルおよび巾木の施工は施主、元請の指示に従って下さい。接着剤は、タイルメーカー推奨の接着剤を使用して下さい。
- ・ タイルと壁面、タイルと巾木は3mm程度の隙間を確保して下さい。
- ・ 目地材は弾性目地、又は元請と協議の上、適切に処理して下さい。(セメント系は不可)
- ・ タイルは捨て合板面だけに施工して下さい。下地が異なる部位への跨ぎ施工は不具合の原因となります。

8. トップタイル下地の保管方法



- ・ トップタイル下地の保管は平置きにて保管して下さい。
- ・ 立て掛け置きは反り、ねじれが起こり施工不良に繋がります。

以上